

[研究報告]

## 中間アンケートにおける質問項目・質問形式に関する一考察

田畑 忍

### 要 約

授業改善などを目的とした、学生による授業評価アンケートが多くの大学で実施されている。しかしながら、学期末に実施する授業評価アンケートでは学生の回答意欲や回答の質が低いのではないかという指摘がある。また、せっかくのアンケート結果が授業改善に活かされていないとの指摘もある。このような状況を改善する目的で、学生による授業評価アンケートを学期の中間段階で実施する試み（中間アンケート）が増えてきている。本研究では、事前調査の結果などをもとに中間アンケートを効率的に実施するための質問項目と質問形式について検討した。

キーワード：授業評価アンケート，中間アンケート，授業改善，質問項目，質問形式

### I. はじめに

授業改善や大学教員のファカルティ・デベロップメントなどを目的とし、現在では学生による授業評価アンケートがほとんどの大学で実施されている。しかし、学期末に実施する授業評価アンケート（以下、学期末アンケート）の場合、教員がアンケート結果を受けて授業改善を行うにしても次年度以降の授業に反映されるだけである。学期末アンケートでは、学生の回答意欲や回答の質が低いのではないかという指摘がある<sup>1)</sup>。そのような中、授業改善を主な目的として、学期の中間段階で学生による授業評価アンケートを実施する試みが増えてきている（以下、中間アンケート）。なお、調査した限りでは、2010年度時点で中間アンケートを実施している大学は約40校ある<sup>2)</sup>。この中には全学的な取り組みではなく、学部や学科ごとでの実践も含んでいる。しかし、教員が個人的に実践しているものについては含んでいない。また、毎回の授業で学生が授業を振り返り、コメントを記入する大福帳<sup>3)</sup>のような試みも含んでいない。

学生による授業評価アンケートの質問項目を大別すると、「あなたはこの授業にどのくらい出席しましたか」のように学生自身の学習姿勢に関するもの、「授業環境は学習に適した状態に保たれていましたか」のように学習環境などに関するもの、「授業内容は理解しやすいよう

に配慮されていましたか」のように授業方法に関するものなどに分類することができる<sup>4)</sup>。また、質問形式には、自由記述形式、単一回答形式、複数回答形式などがある。中間アンケートを実施する各大学では、その目的に応じて質問項目や質問形式を設定している。中間アンケートを効率的に実施するためには、適切な質問項目と質問形式を設定する必要がある。

## II. 中間アンケート

中間アンケートにはさまざまな質問項目、質問形式のものがある。中間アンケートの質問項目の一例を質問形式別に表1に示す。自由記述形式と単一回答形式を併用している大学も多い。

表1 中間アンケートの例

質問形式	質問項目	実施大学
自由記述形式	「この授業の良い点を教えてください」	三重大学 <sup>5)</sup>
	「この授業でもっと改善すべきと思われる点を教えてください（具体的な改善策も提案してください）」	
	「この授業の後半に向けて、より魅力的にするため、あなたの提案をお書きください（例えば、授業内容、方法、教材、進度、話し方など）」	宇都宮大学 <sup>6)</sup>
単一回答形式	「声は聞き取りやすいですか」について、「聞き取りやすい（読みやすい、分かりやすい）、ふつう、改善してほしい」から選択する。以下、同様。	徳島大学 <sup>7)</sup>
	「板書は読みやすいですか」	
	「授業の説明は分かりやすいですか」	
複数回答形式	「授業はよく準備されていきましたか」について、「そう思う、どちらかといえばそう思う、どちらともいえない、どちらかといえばそう思わない、そう思わない」から選択する。以下、同様。	秋田大学 <sup>8)</sup>
	「授業に対する教員の熱意は感じられましたか」	
	「授業の内容が十分に身に付きましたか」	
複数回答形式	「説明がわかりにくい」「字や図表が見にくい（黒板、OHP、パワーポイント）」「授業の進度（早い、適当、遅い）」「課題（多すぎる、適当、少ない）」から選択	鹿児島大学 <sup>9)</sup>

中間アンケートは学期の中間段階で実施するため、学期末アンケートと比べて質問項目を少なくするなど、回答する学生にあまり負担がかからないように工夫をしている大学もある（例えば、県立広島大学<sup>10)</sup>）。また、中間アンケートは形成的評価の側面が強いため、リアルタイムに集計結果を把握できるように、Web上で実施する大学も増えてきた（例えば、フェリス学院大学<sup>11)</sup>）。先行研究や先行実践の試みにおいては、学期末アンケートで中間アンケートの効果を学生に直接聞く大学もある（例えば、千葉大学<sup>12)</sup>）。

### Ⅲ. 本研究の目的

本研究では、先行研究や先行実践の報告と以下に示す事前調査の結果をもとに、授業改善を目的とした中間アンケートを効率的に実施するための質問項目と質問形式について検討することを目的とする。

### Ⅳ. 事前調査の概要

#### 1. 事前調査の目的

事前調査では、中間アンケートの実施の有無が、学期末アンケートの結果及び回答行動にどのような影響を与えるのかを質問形式ごとに確認する。これにより、中間アンケートの効果を検証すること及び中間アンケートを効率的に実施するための質問形式について検討することを目的とする。

#### 2. 事前調査の方法

##### 2.1 対象

三重県内K大学。共通教育科目のうち、情報処理系科目の受講学生で、主として大学1年生を対象とする。対象科目は通年科目であり、春学期は主にWordとExcelを、秋学期はPowerPointとホームページ作成を行っている。

2010年度に実施した事前調査<sup>2)</sup>では、中間アンケートを実施したクラス（人数）は、3クラス（187名）であり、中間アンケート未実施クラス（人数）は3クラス（167名）であった。2011年度に実施した事前調査<sup>13)</sup>では、中間アンケートを実施したクラス（人数）は、3クラス（212名）であり、中間アンケート未実施クラス（人数）は2クラス（127名）であった。

##### 2.2 時期

春学期末アンケートについては2010年度及び2011年度7月4週目（春学期15回の授業中15回目）、中間アンケートについては2010年度及び2011年度11月2～3週目（秋学期15回の授業中8回目）、秋学期末アンケートについては2010年度及び2011年度2月1～2週目（秋学期15回の授業中15回目）にそれぞれ実施した。

##### 2.3 手順

事前調査の中間アンケートは本研究のために著者が独自に実施したもので、授業終了5分前からWeb上で実施した。春学期末アンケートと秋学期末アンケートについては、K大学では基

本的に全開講科目で実施しているもので、授業終了15分前から紙媒体で実施し、専門業者が集計し担当教員に返却される。いずれのアンケートにおいても、アンケートの実施中、担当教員は退室している。学期末アンケートの回収及び教務課への提出については、担当教員が指示した学生が行う。

多くの先行研究では、中間アンケートを実施した後、アンケート調査によって明らかになった学生からの要求をもとに担当教員が授業改善を試みている。中間アンケートを実施しなかった年度と実施した年度の学期末アンケートの結果を比較することで、中間アンケートの有効性を確認する<sup>14)</sup>。しかしこの方法では、中間アンケートを実施することの効果ではなく、その後に行った授業改善の効果を確認するといった側面が強い。

そこで本研究では、中間アンケートを実施した後も中間アンケート実施クラスと未実施クラスで同一の授業展開を行った。つまり、中間アンケートで明らかになった学生からの要求をもとに授業改善をせず、授業内容や配布物、学習進度などを変更しなかった。これは、中間アンケートで授業改善を求めた学生にとってみれば、せっかくの要求が活かされていない状況である。中間アンケートは秋学期の中間段階で実施する。授業改善を求めたにもかかわらず改善が行われなければ、中間アンケートを実施したクラスでは、実施しなかったクラスと比べて秋学期末アンケートの結果が悪くなると予想される。このような方法は本来好ましい方法ではない。しかし、それぞれのクラスの春学期末アンケートと秋学期末アンケートの結果を比較することにより、中間アンケート自体の効果を確認するためにあえてこの方法で実施した。

## 2.4 アンケート内容

2010年度と2011年度に実施したアンケート調査の質問項目と質問形式は以下のとおりである。なお、後述の「3. 事前調査の結果」以降では、各質問項目の全文を示さず、例えば、「授業内容のレベルは適切でしたか」を「レベル」とするように、それぞれの質問項目をキーワードで表示することとする。そのキーワードとなる言葉についても、以下に示す質問項目内に示す。

〈2010年度〉

中間アンケートと学期末アンケートともに単一回答形式で実施した。K大学が全学的に実施している学期末アンケートには他の質問項目もあるが、2010年度の調査では以下に示す4項目のみを比較対象として利用した。

(ア) 中間アンケートと学期末アンケートで共通の質問項目：

- ① 私語等への対応により授業に集中できる環境、学びやすい雰囲気を作られていましたか。……「はい、いいえ」(キーワード：学習環境)
- ② 授業中の説明や指導は明確でしたか。……「はい、いいえ」(キーワード：説明)

(イ) 学期末アンケートのみの質問項目：

- ① この授業に刺激を受け、興味が持てましたか。……「はい、いいえ」(キーワード：興味)

- ② 総合的に見て、この授業を受けて良かったですか。……「はい、いいえ」(キーワード: 総合評価)

〈2011年度〉

2011年度の中間アンケートは、多くの大学の授業評価アンケートで利用されている自由記述形式で実施した。中間アンケートの質問項目にある括弧内で補足した「レベル」「進度」などは、「内容」を除いて学期末アンケートの質問項目のキーワードに一致している。

(ア) 中間アンケートの質問:

- ① この授業に対する感想や要望などを自由に書いてください(例「内容」「レベル」「進度」「学習環境」「説明」「興味」など)

学期末アンケートの以下の質問項目を比較対象として利用した。

(イ) 学期末アンケートの質問項目:

- ① 授業内容のレベルは適切でしたか……「高すぎる, 適切, 低すぎる」(キーワード: レベル)
- ② 授業の進む速さは適切でしたか……「速すぎる, 適切, 遅すぎる」(キーワード: 授業進度)
- ③ 私語等への対応により授業に集中できる環境, 学びやすい雰囲気を作られていましたか。……「はい, いいえ」
- ④ 授業中の説明や指導は明確でしたか。……「はい, いいえ」
- ⑤ この授業に刺激を受け, 興味が持てましたか。……「はい, いいえ」

### 3. 事前調査の結果

#### 3.1 2010年度の中間・学期末アンケートの結果

2010年度の春学期末アンケート, 中間アンケート, 秋学期末アンケートの結果を表2に示す。各クラスをA~Fと表記した。表中の数字は、「いいえ」と否定的な回答をした割合を示している。事前調査を実施した講義は、もともと否定的な回答が少ない授業であった。中間アンケートを実施したクラスと実施しなかったクラスにおける、春・秋学期末アンケートの否定的回答の割合を比較した結果、有意差は確認できなかった。なお、網かけは、秋学期末アンケートの結果が春学期末アンケートの結果よりも悪くなっていることを示している。

中間アンケートを実施したCクラスの結果を例に、表の見方を確認する。中間アンケートで質問した「学習環境」の場合、春学期末アンケートでは否定的に回答した割合が0%であったのに、秋学期途中で実施した中間アンケートでは否定的に回答した割合が2.2%となった。秋学期末アンケートではさらに悪化し、4.9%となった。秋学期末アンケートの結果は、春学期末アンケートの結果と比べて否定的に回答した割合が増えたので網かけをしている。また、同じCクラスの「興味」の場合、春学期末アンケートの結果は「学習環境」と同じく0%であ

た。「興味」は中間アンケートで質問していない項目なので、中間アンケートの欄は空欄となっている。秋学期末アンケートの結果は0%で、春学期末アンケートの結果から変化しなかったため網かけはしていない。

なお、「a」～「d」で示した枠は以下のことを示している。

- (ア) a：中間アンケート実施クラスで、中間アンケートで質問した項目の中間アンケートと各学期末アンケートの結果。
- (イ) b：中間アンケート実施クラスで、中間アンケートで質問しなかった項目の各学期末アンケートの結果。
- (ウ) c：中間アンケート未実施クラスで、中間アンケートを実施したクラスでは質問した項目の各学期末アンケートの結果。
- (エ) d：中間アンケート未実施クラスで、中間アンケートを実施したクラスでも質問しなかった項目の各学期末アンケートの結果。

表2 2010年度・中間アンケートと各学期末アンケートにおける否定的回答の割合

	質問した項目		質問しなかった項目			
	学習環境	説明	興味	総合判断		
中間アンケート実施クラス						
A・春学期	a	1.6%	0%	b	0%	0%
A・中間		1.6%	4.9%			
A・秋学期		1.7%	1.7%		0%	0%
B・春学期		0%	0%		0%	0%
B・中間		1.8%	3.6%			
B・秋学期		4.2%	6.3%		4.2%	2.1%
C・春学期		0%	0%		0%	0%
C・中間		2.2%	2.2%			
C・秋学期		4.9%	0%		0%	0%
中間アンケート未実施クラス						
D・春学期	c	0%	2.2%	d	2.2%	2.2%
D・秋学期		0%	0%		0%	0%
E・春学期		4.8%	2.4%		2.4%	2.4%
E・秋学期		0%	0%		2.4%	0%
F・春学期		0%	0%		1.8%	0%
F・秋学期		0%	0%		0%	0%

2010年度の事前調査の結果から、以下のことがわかった。

- (ア) 単一回答形式で実施した中間アンケートでは、アンケートを実施した日に出席していた学生全員が、ほぼすべての質問項目に回答した。
- (イ) 中間アンケートでは、すべてのクラスと質問項目で、数は少ないが否定的な回答、つまり授業の改善を要求する意見が見られた。
- (ウ) 「a」の枠では網かけのセルが多い。
- (エ) 「a」の枠では、中間アンケートの結果よりも秋学期末アンケートの結果の方がより悪くなっている項目が4つあった。
- (オ) 中間アンケートを実施しなかった「c」と「d」の枠では、網かけのセルは1つもない。
- (カ) 中間アンケートで質問しなかった項目については、「b」と「d」いずれの枠でも、網かけのセルが少ない。

### 3.2 2011年度の中間アンケートの結果

自由記述形式で実施した2011年度中間アンケートの結果を、学期末アンケートの質問項目に対応させて「レベル」「学習進度」「学習環境」「説明」「興味」「その他」のキーワードで分類した。結果を表3に示す。さらに、それぞれのキーワードの回答を「否定的」「肯定的」に分類した。分類の例を示すと、「授業はおもしろいのでこのままで良い」は「興味」の「肯定的」に分類した。また、「話をしている学生にもっと注意をしてほしい」は「学習環境」の「否定的」に分類した。「(講師の) 声が大きすぎる」は「その他」の「否定的」に分類した。「説明がわかりやすいし、レベルもちょうど良い」は、「説明」と「レベル」の「肯定的」に分類した。なお、「良かった」「楽しかった」など、主語が抜けているものはすべて「その他」とした。

表3 2011年度・中間アンケートの結果：各キーワードに関する肯定的/否定的の分類結果

	否定的	肯定的	計
レベル	30	41	71
授業進度	16	24	40
学習環境	6	18	24
説明	6	28	34
興味	13	31	44
その他	18	34	52
計	89	176	265

2011年度の中間アンケートの結果から、以下のことがわかった。

- (ア) 分類された全回答のうち、約34%は否定的な回答、つまり授業の改善を要求する意見であった。
- (イ) 単一回答形式で実施した2010年度の中間アンケートよりも否定的な回答数が多かった。
- (ウ) 分類された全回答のうち、「レベル」に関する回答が最も多く約27%であった。
- (エ) 中間アンケート当日に受講していた学生のうち、約12%の学生が無回答であった。
- (オ) 回答した学生の自由記述内に見られたキーワードの平均は1.42個であった。
- (カ) 否定的な回答には、「レベルが高い（25件）—低い（5件）」「授業進度が速い（11件）—遅い（5件）」など、相反する回答が見られた。

### 3.3 2011年度の春・秋学期末アンケートの結果

本研究では、学期末アンケートにおける回答のうち、「高すぎる、低すぎる、速すぎる、遅すぎる、いいえ」を否定的な回答とした。各質問項目の回答数に対する否定的な回答の割合を表4に示す。網かけは、春学期末アンケートの結果と比べて秋学期末アンケートの結果の方が悪くなっていることを示している。

中間アンケートの主な目的は、学生からの要求を受けて授業を改善することである。しかし、本研究では先に述べたとおり、中間アンケートの否定的な回答をもとに授業改善を行わず、授業のレベルや学習進度などを中間アンケート未実施クラスと同じにした。これは、中間アンケートの実施の有無が、学期末アンケートの結果にどのような影響を与えるのか、つまり、中間アンケート自体が学生の学期末アンケートの回答行動にどのような影響を与えるのかを確認するためである。

表4 2011年度・各学期末アンケートにおける否定的回答の割合

	中間アンケート実施		中間アンケート未実施	
	春学期末	秋学期末	春学期末	秋学期末
レベル	7.3%	*13.6%	6.2%	7.4%
授業進度	5.2%	8.6%	7.7%	7.4%
学習環境	2.1%	3.5%	1.8%	1.9%
説明	0.5%	2.0%	2.7%	1.9%
興味	4.2%	6.1%	1.8%	1.9%

2011年度の各学期末アンケートの結果から、以下のことがわかった。

- (ア) 「レベル」以外では有意差は確認できなかったが、中間アンケート実施クラスではすべての質問項目で秋学期末アンケートの結果の方が悪くなっている。
- (イ) 「レベル」では、春学期末アンケートと秋学期末アンケートの結果に有意差が確認できた

(\* $p = 0.429 < 0.05$ )。

(ウ) 中間アンケート未実施クラスでも3つの質問項目で秋学期末アンケートの結果の方が悪くなっている。しかし、その悪化の程度は中間アンケート実施クラスと比較して小さい。

## V. 効率的な中間アンケートについての検討

先行研究や先行実践の報告と本研究で実施した事前調査の結果とともに、授業改善を目的とした中間アンケートを効率的に実施するための質問項目と質問形式について検討する。

### 1. 事前調査の結果に関する考察

事前調査では、統計処理を行ったほとんどの項目間で有意差を確認できなかった。そのため、中間アンケートの実施の有無が学期末アンケートの回答行動にどのような影響を与えるのかを確認することはできなかった。しかし、2010年度と2011年度の中間アンケートの回答からは、中間アンケートは学生からの授業改善に関する要求をある程度拾い上げる可能性があることがわかった。

自由記述形式は中間アンケートに限らず、授業評価アンケートでよく利用されている。自由記述形式は、学生の率直な意見を直接聞くことができるという点で優れている。また、単一回答形式よりも多くの意見を引き出せる可能性がある。しかし、自由記述形式では、改善しにくい要求や相反する要求が出てくる可能性もある。また、単一回答形式などと比較して回答率が悪い。2011年度の事前調査では回答率は88%に達したが、それでも、文章作成に慣れていない学生にとっては自由記述というだけでハードルが高く感じられたかもしれない。回答時間を長くすることも考えなくてはならない。2011年度の調査では5分間の回答時間を用意したが、アンケート後の学生との会話では、「回答時間が短かった」という意見が何件か聞かれた。

単一回答形式で実施した2010年度の結果からは、回答率の高さが確認できた。これは、自由記述形式と比べて回答しやすく、学生の負担が少なかったためだと考えられる。また、単一回答形式では集計も自動で容易に行える。形成的評価の側面をもつ中間アンケートには即時フィードバックが求められるので、その点において、単一回答形式は中間アンケートの目的に合致していると考えられる。しかし、例えば、「授業内容のレベルは適切でしたか……高すぎる、適切、低すぎる」のように、相反する回答の選択肢を用意した場合、アンケート結果を受けた授業改善が難しくなる可能性もある。

自由記述形式にも単一回答形式にもメリットとデメリットがある。中間アンケートの目的は、現在進行形の授業を学生がどのように感じているのかを確認し、不満を感じている点があれば改善しようとする試みである。それにより、学生の授業の満足度を高めることができる。しかし、授業内容を学期の途中で変更するには多くの労力が必要である。このように考えると、中

間アンケートでは授業途中であっても担当教員が改善しやすい質問項目、例えば学習環境や授業を理解するための補足説明などに絞って聞くことが良いのではないかと考える。もちろん、質問項目には十分に配慮し、学生からの要求をまんべんなく拾い上げることができるものにする必要がある。

## 2. 改善しやすい質問項目を用いた先行実践

関西大学では、形成的評価のためのアンケートという中間アンケートの性質を考慮し、「すぐに授業改善に反映可能」な質問項目に絞って中間アンケートを実施している<sup>15)</sup>。以下に示すものが関西大学の中間アンケートである。

質問項目（箇条書き番号）9の自由記述形式では相反する要求が出てくる可能性があるが、質問項目1～8の選択肢は「はい」「いいえ」の2値であるため、単一回答形式の質問項目から相反する要求は出ないようにになっている。また、質問項目は具体的で、授業改善を行う教員にも中間アンケートに回答する学生にもわかりやすいものになっている。

1. 毎回の授業の主題・テーマを明確にしている。
2. 教員は授業の開始・終了時間を守ろうとしている。
3. 板書（パワーポイントなど）は、読みやすい。
4. 教員の声や言葉、話し方は明瞭で聞きやすい。
5. 学生が質問や意見を伝えるように配慮し、適切に対応している。
6. 学生の反応を確かめながら授業を進めている。
7. 他の受講生の私語や携帯電話等の使用に対する不満がある。
8. この授業を受講するにあたって、シラバスは参考になった。
9. この授業の良かったところや改善するところなど自由に記述してください。

## 3. 提案する中間アンケートの質問項目・形式

事前調査の考察や先行実践などの報告をもとに、授業改善を目的とした中間アンケートを効果的に実施するための質問項目と質問形式の一案を表5に示す。便宜上、上から質問項目1、質問項目2、……とする。ここで示す案は関西大学の質問項目と同じく、担当教員がすぐに授業改善に反映可能な質問項目を念頭に置いている。また、授業を円滑に進める上で必要な質問項目とするため、名古屋大学高等教育研究センターが提案している『ティップス先生からの7つの提案 教員編』<sup>16)</sup>も参考にした。

表5の質問項目1, 5, 6, 11, 17については、関西大学の中間アンケートの質問項目とほぼ同じである。関西大学の質問項目4, 8, 9については載せていない。質問項目4を載せなかったのは、声や言葉、話し方は改善しにくいと考えたからである。表5の質問項目9, 10につい

では、関西大学の質問項目5を2つに分けた形になっている。

ここに示したアンケート案は、複数回答形式で実施する。「いいえ」という内容にチェックを入れる複数回答方式では、相反する回答は出ない。また、それぞれの質問項目に1つずつ回答する単一回答形式より、そうだと思う質問項目にチェックを入れる複数回答形式の方が学生の負担をより軽くすることができると考えた。「いいえ」と思うものを選択するようにしたのは、質問項目を肯定的に表現したいと考えたためである。なお、本アンケートの実施にはWebを想定している。

表3では、学生による自由記述の意見を5つのキーワードによって分類した。同じキーワードを利用して、表5の質問項目を分類すると以下ようになる。

- (ア) レベル……質問項目9, 11, 12, 13, 14, 16
- (イ) 授業進度……質問項目11, 12
- (ウ) 学習環境……質問項目5, 8, 9, 13, 15, 16, 17, 18
- (エ) 説明……質問項目1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 10, 11, 14
- (オ) 興味……質問項目19, 20

いくつかの質問項目でキーワードの重複が見られるが、ここに示したアンケート項目により、学生の要求をある程度、拾い上げることができるのではないかと考える。

表5 提案する中間アンケートの質問項目

「いいえ」と思うものにチェックを入れてください。いくつチェックを入れても構いません。また、チェックを1つも入れなくても良いです。

- 教員は、毎回の授業の主題・テーマを明確にしている。
- 教員は、毎回の授業の到達目標を明確に示している。
- 学習目標を達成するための方法（ヒント）が示されている。
- 授業の始めに、前回の学習内容の復習がなされている。
- 教員は、授業の開始・終了時間を守ろうとしている。
- 板書（パワーポイントなどを含む）は、読みやすい。
- 毎回の授業では、新しく学ぶ事項が明確に示されている。
- 必要に応じて補足資料の配付が適切になされている。
- 学生が質問や意見を言いやすいように配慮している。
- 学生の質問や意見に的確に答えている。
- 学生の反応を確かめながら授業を進めている。
- 学習内容を練習する時間が十分に確保されている。
- 練習の時には、ミスが許される環境がある。
- 練習した結果に対して適切なフィードバックが与えられている。
- 練習の成果を確かめる機会（例えばテストや発表）が用意されている。
- 欠席時の内容を取り戻すための準備がされている。
- 受講生の私語や携帯電話等の使用に適切な指導がなされている。
- 教室内の温度設定などに配慮がなされている。
- 授業内容に関連する先進的な研究についての解説があった。
- 授業内容に関連する興味深い著書や論文についての紹介があった。

## VI. まとめと今後の課題

授業改善につなげやすい中間アンケートの質問項目と質問形式について検討した。事前調査では、春学期末・秋学期末アンケートの結果を中間アンケートの実施の有無で比較した。統計処理を行ったほとんどの項目間で有意差を確認することができず、中間アンケートの実施の有無が学期末アンケートの回答行動にどのような影響を与えるのかを確認することはできなかった。しかし、事前調査における中間アンケートの回答状況から、中間アンケートは学生からの授業改善に関する要求をある程度拾い上げる可能性があることがわかった。自由記述形式は、学生の率直な意見を聞くことができる優れた質問形式だが、授業改善を目的とした中間アンケートでは相反する回答が出る可能性があるなど、その目的に合致しない可能性があると考えた。本研究では、改善しやすく、学生の授業に対する要求を適切に拾い上げることができると考えられる質問項目の一例を示した。また、単一回答形式よりも回答しやすいように、「いいえ」という質問項目にチェックを入れる複数回答形式で示した。今後は試用実験の結果について検討し、その効果を確認する。

### 参考文献

- 1) 東北大学高等教育開発推進センター「学生による授業評価の現在」東北大学出版会、2010年
- 2) 田畑忍「中間アンケートが学期末に実施する授業評価アンケートの回答に与える影響」、日本教育工学会第27回全国大会講演論文集、2011年、pp. 829-830
- 3) 織田揮準「大福帳による授業改善の試み——大福帳効果の分析」、三重大学教育学部研究紀要42、1991年、pp. 165-174
- 4) 永原和夫・菅原良・松岡審爾・池田官司「学生による授業評価に関する全国調査」、北海道文教大学論集12、2011年、pp. 157-172
- 5) 三重大学教育学部・教育学研究科FD委員会：FD通信No. 43、2010
- 6) 宇都宮大学ホームページ「授業評価のための中間アンケートの実施について（依頼）」：<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/academic/teach-eva.html>（2013年12月30日閲覧）
- 7) 松谷 満・桑折範彦・佐野勝徳「授業方法に関する中間アンケートの効果分析——授業評価の新たな取り組みと課題」、大学教育研究ジャーナル3、2006年、pp. 30-43
- 8) 細川和仁「授業評価調査における中間評価の有効性」、秋田大学教養基礎教育研究年報1-9、2007年、pp. 4-12
- 9) 平成21年度鹿児島大学工学部ファカルティ・デベロップメント委員会報告書（平成22年3月）：<http://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/home/FD/H21FDhoukoku.pdf>（2013年12月30日閲覧）
- 10) 県立広島大学総合教育センターホームページ「平成20年度「学生による授業評価」報告書の概要」：<http://www.pu-hiroshima.jp/cec/files/090630hennkouhoukokusyo.pdf>（2013年12月30日閲覧）
- 11) フェリス女学院大学ホームページ「2009年度学生による授業評価アンケート結果と授業改善の取り組みについて 大学FD委員会」：<http://www.ferris.ac.jp/educations/env-support/fd/pdf/tenken09.pdf>（2013年12月30日閲覧）
- 12) 千葉大学普遍教育センターホームページ「授業アンケート結果概要」「平成23年度前期授業評価」：<http://www.fuhen-chiba-u.jp/pub/upload/15216-426850654-598641.pdf>（2013年12月30日閲覧）

- 13) 田畑 忍「中間アンケートにおける質問項目・形式に関する一考察」, 日本教育工学会第28回全国大会講演論文集, 2012年, pp. 241-242
- 14) 権田豊「中間アンケートを取り入れたリアルタイム授業改善」, 新潟大学大学教育機能開発センター大学教育研究年報16, 2010年, pp. 125-129
- 15) 関西大学教育開発センターホームページ「授業評価」 「2012年度秋学期 授業評価アンケート実施手順 (学部版)」: [http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/teacher/pdf/2012\\_au\\_question.pdf](http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/teacher/pdf/2012_au_question.pdf) (2013年12月30日閲覧)
- 16) 名古屋大学高等教育研究センターホームページ「ティップス先生からの7つの提案 教員編」: [http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven/faculty/index\\_2.html](http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven/faculty/index_2.html) (2013年12月30日閲覧)

## A Study of Question Items and Form about the Midterm Survey

Shinobu TABATA

### Abstract

These days, the questionnaire about lecture is conducted at universities throughout the country. However, deterioration in the quality of responses is often pointed out. And the results of the surveys seems not to have been adequately utilized. To improve this situation, universities carrying out the midterm survey have been increasing over time. In this study, we examine question items and form of the midterm survey. They are important to implement the midterm survey effectively.

**Keywords:** questionnaire about lecture, midterm survey, lesson improvement, question items, question form